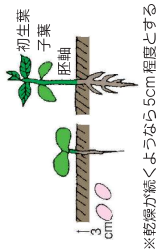


# 大豆栽培こよみ

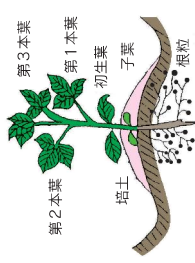
時期	6	7	8	9	10	11	下
主な作業	適地の選定	鳥害防止準備 耕起・整地 播種 （施肥）	除草剤散布 中耕・培土	病虫害防除	青立株抜取り	成熟期	収穫乾燥
作業内容	排水溝設置 周囲にやや深い排水溝を設け溝をつなく。 耕起・砕土 砕土を十分行う。 圃が多い場合はうしろツツシツスロード、またはハス薬剤を張る。 種子消毒 10kgに20ml使用する。 またはキヒケンを種子10kgに100g散布する。 （ハト害・紫斑病） ※播種深度は3cm程度が適当であるが、土壌が乾燥している場合はやや深め(5cm程度)にする。 ※トラクタに培土板を装着し、播種時に土壌を圧縮する。 ※播種時は適期内での早期の時期は少なめに、遅めの時期は多めにする。 地力増強 麦つらつき込み。完熟堆肥の施用 PHの矯正 目標PH 6.0、6.5 ※施肥基準 参照 排水良好でかん水の恐れがない場合	除草剤基準 参照 播種時期と栽培密度 参照 施肥基準 参照	被害葉が自立つてきたら薬剤による生育防除を行う。 ハスモンヨトウの薬剤防除 病虫害防除基準 参照 被害葉を早めに除去する。 ハスモンヨトウ（発生初期）のみ幼虫が群集している白変 2回日本葉5枚から6枚までに行う。 8月10日頃までに必ず一回は実施する(倒伏防止と雑草対策)。 1回日本葉2枚から4枚までに行う。	※ハスモンヨトウの発生は隣接するほ場に被害を与えます。 紫斑病・雑害虫 カメムシ ハスモンヨトウ 病虫害防除基準 参照	葉の裏側に かすがよく かさがよくなるように 葉の裏側に かすがよく かさがよくなるように	虫喰い・異物等を選粒機で除去する。 子実水分16%以下 刈取適期は成熟期7日後から 乾燥した時期 成熟期は大部分が落葉し葉を振ると、音をたてる程度に	



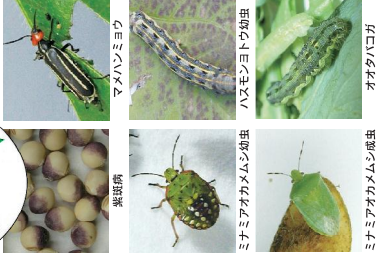
播種様式(例)



播種・出芽期



中耕・培土



※ハスモンヨトウの発生は隣接するほ場に被害を与えます。  
紫斑病・雑害虫  
カメムシ  
ハスモンヨトウ  
病虫害防除基準 参照



※刈取の際は土のかき込み、雑草の汁による汚損粒に注意しましょう。

## ◆播種時期と栽植密度

品種名	フクユカタカ(1株当り2~3粒)	備考
播種期	7月10~20日(適播播き)	7月下旬~(遅播き)
条間(cm)	汎用65cm	大豆専用70cm
株間(cm)	30~20	15~10
10a当り播種量(kg)	3.0~4.0	6.0~8.0

※播種深度は3cm程度が適当であるが、土壌が乾燥している場合はやや深め(5cm程度)にする。  
※トラクタに培土板を装着し、播種時に土壌を圧縮する。  
※播種時は適期内での早期の時期は少なめに、遅めの時期は多めにする。

## ◆施肥基準

※土壌分析をもとに施用する。  
播種前の土壌改良資材等 (kg/10a)

資材名	施用量	成分量	備考
生石灰	100	窒素	—
炭酸苦土石灰	200	リン酸	—
ミネラルG	100~200	カリ	—
PK化成4.0号	30	—	—

PHの矯正目標 PH6.0~6.5

## ◆品種特性表

(7月15日播種)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
フクユカタカ	8月24日	11月7日	中	339kg	30.9g

※中耕、培土による耕種防除も併せて行う。

## ◆病害虫防除基準

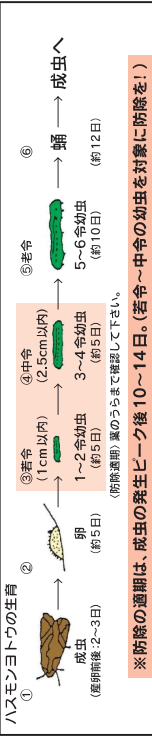
時期	対象病害虫	薬剤名	散布濃度	備考
8月下旬	ハスモンヨトウ	フレオフロアブル	1,000倍~2,000倍	収穫7日前まで
9月中旬	カメムシ類	キラップフロアブル	100~300倍	収穫7日前まで
9月中旬	紫斑病	トップジンM水和剤	1,000倍~1,500倍	収穫14日前まで
8月下旬	ハスモンヨトウ	フレオフロアブル	8倍~16倍	収穫7日前まで
9月中旬	カメムシ類	キラップフロアブル	16倍~32倍	遅期防除
9月中旬	紫斑病	トップジンM水和剤	16倍	0.8L

## ◆除草剤基準

使用時期	除草剤名	希釈水量	留意点
播種前	ラウンドアップ777フロアード	50~100L	隣接、周辺の水稻など他作物への飛散を防止する。
播種直後	ラクサー液剤	100~150L	雑土は2~3cm以上とし、よく整地して鎮圧する。 二重散布にならないように均一に散布する。
出芽前	サターンプラザ液剤	4~6kg	大型ヒコ類対策。
生育中	プロールアラ液剤	400~600ml	大型ヒコ類対策。更にイネ科に強い。
	ホルトルアラ液剤	200~300ml	イネ科雑草対策(3~10葉期) 但し収穫30日前まで
	大豆バサガラ液剤	100~150ml	大豆2葉期~開花期 但し収穫45日前まで
	バスタ液剤	300~500ml	アザガキ等防除(大豆からイネに移行する) 但し収穫2日前まで

農業の安全使用と隣接する作物への飛散防止対策を徹底しましょう。  
農業の登録内容は随時更新されますので使用する際は、包装資材や袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。

※作業日誌・生産工程管理チエツクシートは別に配布しますので、必ず記帳をお願い致します。



※防除の適期は、成虫の発生ピーク後10~14日。(若令~中令の幼虫を対象に防除を！)